

I 市勢の概要

1 岐阜市の沿革

本市は、木曾三川の沖積土によってできた肥沃な濃尾平野の北部に位置し、旧石器時代の遺物が発見されていることから、既に1万5千年前に原住民がおり居住していたことが明らかになっています。

さらに、農耕や家畜を飼育していたとされる縄文・弥生時代の土器や文化的遺物が市内各地から相当多く発掘され、また大和前期の古墳が残っている事実から推察すると、2,000年以上前の早くから開拓がなされ、かなり多くの住民が生活していたと考えられます。

鎌倉時代には、二階堂山城守行政が幕府から派遣されて稲葉山城を築きました。室町時代に入り美濃源氏の末流土岐頼遠がこの地を治め、土岐氏は一時期美濃・尾張・伊勢三国の守護職を兼ねるなど、その勢力は細川・斯波・畠山の三管領を凌駕したともいわれています。しかし、戦国時代に入って斎藤道三によって滅ぼされ、道三は稲葉山城を改築して美濃一国の太守として君臨しました。後年、織田氏と抗争を続けることとなり、道三の孫龍興の代に信長によって稲葉山城を攻め落とされ、斎藤氏は滅びました。信長は、稲葉山城に入城し、天下統一の本拠地とするに至り、当時「井の口」と呼ばれていた地名を中国の周時代の故事にちなんで「岐阜」と改めて天下に広めました。信長は道三の志を継承して岐阜のまちづくりに努め、今日の都市計画的手法を用い、秩序ある城下町の形成を図るとともに、初めて「楽市楽座」制を設けるなど産業の育成に尽くし、経済の振興に意を注ぎました。

慶長5年、関ヶ原の合戦で徳川の軍勢に敗れ、織田秀信の岐阜城は陥落し廃城となり、改めて加納に城が築かれ、岐阜は幕府の直轄地となりました。以後、地味ではありましたが商工の町として300年間諸役が免ぜられ、保護を受けながら順調な発展を続けました。

明治4年の廃藩置県に際しては、笠松県に属し同年更に岐阜県に改められ、同6年本市に県庁が設置されるに及び、伝統の商業都市に併せ県政の中心となって急速な伸展をみることとなりました。

更に、明治21年1月には、東海道線の開通により岐阜駅が開設され、市街地も次第に南へと広がり、同時に駅周辺地区の発展拡大がみられました。同22年7月1日市制を施行しましたが、このとき面積10k m²、人口25,750人でありました。以後、明治24年10月の濃尾震災、昭和20年7月の戦災と二度の大きな災厄にもかかわらず、近隣の町村を合併し、平成8年には中核市として全国有数の都市となり、商業業務としてあるいは観光都市として中部地方における政治、経済、学術、文化等の主要都市となりました。さらに、平成18年1月に柳津町との合併により面積203.60k m²の新たな「岐阜市」が誕生しました。



2 位置・地勢と気候

本市は岐阜県の県都であり、県の南西部に位置しています。我が国のほぼ中央部に位置しており、名古屋とは約 30 km、東京とは約 250 km、大阪とは約 140 km の距離にあります。関、羽島、各務原、山県、瑞穂、本巣、大垣の 7 市及び羽島、本巣の 2 郡に隣接し、伊勢湾内陸部の拠点都市として東海道沿線の主要都市であるばかりでなく、北陸を結ぶ JR 高山本線の起点でもあります。

また、濃尾平野の北端に位置しており、木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）による扇状地形により形成されています。市域の中心部を東西に流れる長良川は天井川であり、平地部での地下水位は高くなっています。

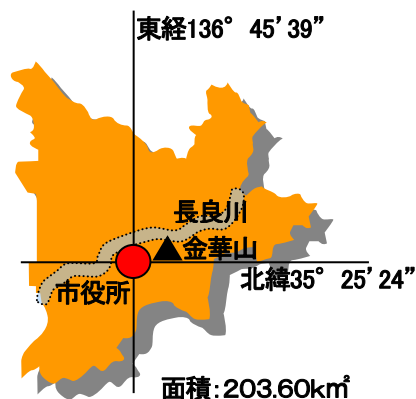
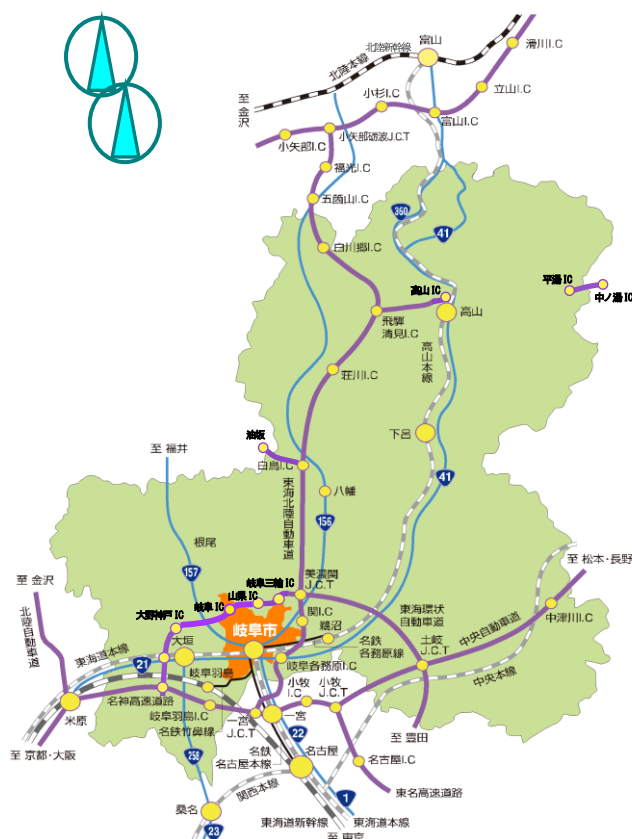
海拔高度は、可住地の北部においては約 70m、南部低地において 5.5m を示し、勾配は北から南へ 1/500～1/1,500、東から西へ 1/1,000～1/1,500 です。



北部には標高 300m に及ぶ山々が遠く福井、滋賀県に連なります。また、中央部には標高 329m の金華山がそびえ、長良川の清流が東西を貫流するなど、山紫水明の美に恵まれています。

気候は東海型で、冬季は降水量が少なく、北西ないし西寄りの風が強く吹きます。春秋は温暖であり、夏季は南寄りの風が強く、著しく高温多湿になります。

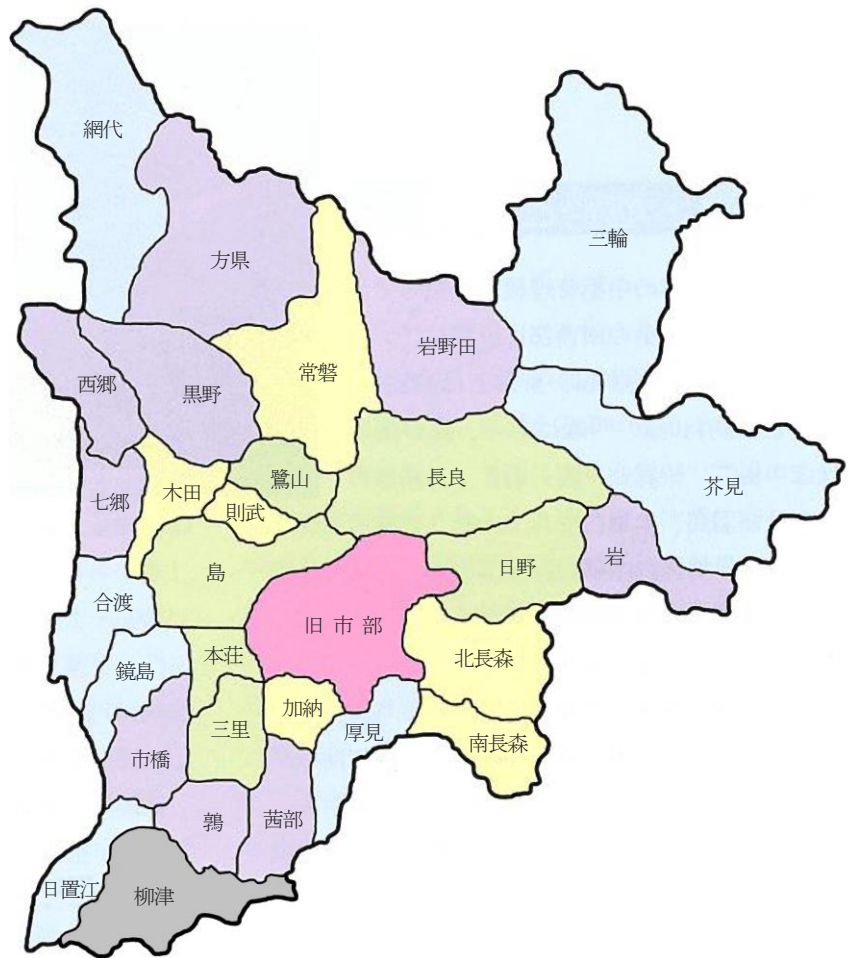
位置図



3 市域および人口

市域の変遷

- 旧市部
- 昭和6年～10年編入
稲葉郡本庄、日野、長良、島、三里、鷺山村
- 昭和15年編入
稲葉郡加納町、則武、常磐、南長森、北長森、木田村
- 昭和24年～25年編入
山県郡岩野田村、本巢郡西郷、七郷村、稲葉郡黒野、方県、茜部、鶉、市橋、岩村
- 昭和30年～44年編入
稲葉郡鏡島、厚見、芥見、日置江村、山県郡三輪村、本巢郡合渡、網代村、本巢郡本巢町大字外山地区の一部
- 平成18年編入
羽島郡柳津町



市域の推移

(単位: 面積km²)

合併年月日	合併地域	合併面積	合併後の面積	合併年月日	合併地域	合併面積	合併後の面積
明22.7.1 市制施行	岐阜米屋町、桜町、万力町、白木町、常磐町	10.00	10.00	昭15.2.11	稲葉郡加納町	2.25	48.81
	笹土居町、扇町、松屋町、愛宕町、末広町				稲葉郡則武村	2.00	
	大和町、中竹屋町、上竹屋町、釜石町、布屋町			昭15.7.1	稲葉郡南長森村	4.04	70.73
	本町、加和屋町、魚屋町、上新町、久屋町				稲葉郡北長森村	7.14	
	中新町、蜂屋町、靱屋町、大工町、甚衛町				稲葉郡木田村	2.54	
	珠城町、間之町、加茂町			昭24.7.1	稲葉郡常磐村	8.20	80.34
	相生町、榊町、矢島町、栄町、木造町				山県郡岩野田村	9.61	
	堀江町、若松町、上ヶ門町、七曲町、車之町			昭25.8.20	稲葉郡黒野村	7.71	125.08
	鍛冶屋町、下新町、下大桑町、中大桑町、上大久和町、西材木町、東材木町、北今町、上今町				稲葉郡方県村	14.81	
	中今町、下今町、達目洞、伊奈波神社境内				稲葉郡茜部村	5.74	
	小熊村				稲葉郡鶉村	3.49	
	今泉村				稲葉郡市橋村	4.75	
	富茂登村			昭25.12.10	本巢郡七郷村	3.67	129.51
	稲束村				本巢郡西郷村	4.57	
	上加納村の内			昭30.2.11	稲葉郡岩村	4.43	136.65
	字町邸、字金園、字西屋敷、字高巖				稲葉郡鏡島村	3.75	
	字柳ヶ瀬			昭33.4.1	稲葉郡厚見村	3.39	155.69
	字神室の内金神社裏作道以东				稲葉郡日置江村	3.74	
	字長住の内鉄道線路以北			昭34.4.1	稲葉郡芥見村	15.30	160.70
					本巢郡合渡村	5.01	
明36.4.1	稲葉郡上加納村	0.05	10.05	昭36.4.1	山県郡三輪村	22.33	183.03
昭6.4.1	稲葉郡本庄村	2.47	18.74	昭38.4.1	本巢郡網代村	12.08	195.11
	稲葉郡日野村	6.22		昭44.2.1	本巢郡本巢町大字外山地区の一部	1.09	196.20
昭7.7.1	稲葉郡長良村	12.10	30.84	平10.10.1	武芸川町との境界確定	▲ 1.08	195.12
昭9.12.5	稲葉郡島村	7.01	37.85	平18.1.1	羽島郡柳津町	7.77	202.89
昭10.6.15	稲葉郡三里村	3.52	44.56	平26.10.1	国土地理院の再計測による増加	0.71	203.60
	稲葉郡鷺山村	3.19					

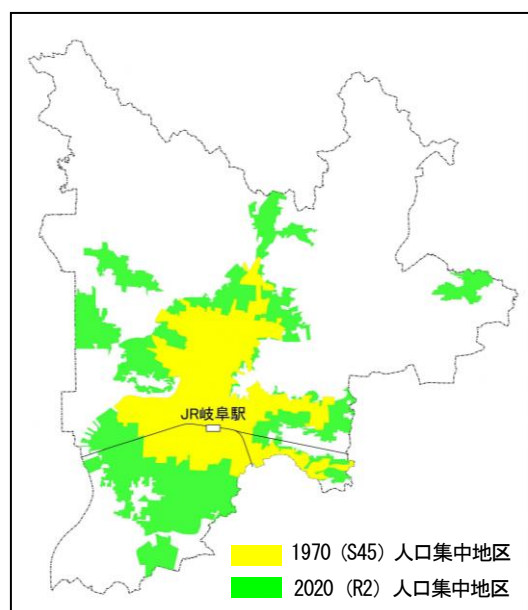
世帯・人口・人口密度の推移

(単位:世帯・人)

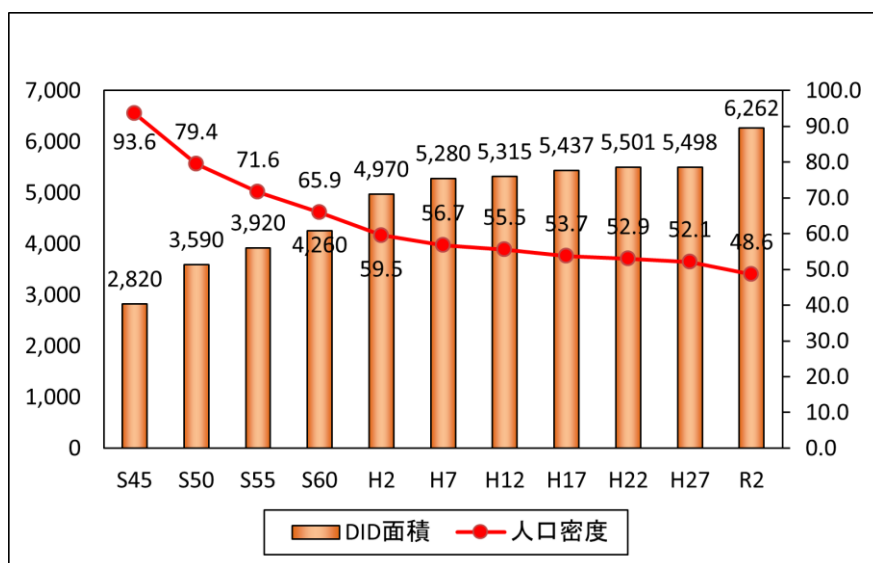
年 次	世 帯	人 口			人口密度 (1k m ²)	1世帯 平均人員
		総 数	男	女		
明治 22 年 (市制施行当時)	5,150	25,750	-	-	-	5.0
大正 9 年 (第 1 回国調)	13,812	62,713	29,611	33,102	6,265	4.5
〃 14 年 (第 2 回国調)	16,300	81,902	38,131	43,771	8,185	5.0
昭和 5 年 (第 3 回国調)	18,996	90,112	42,618	47,494	8,977	4.7
〃 10 年 (第 4 回国調)	25,941	128,721	61,803	66,918	2,889	5.0
〃 15 年 (第 5 回国調)	35,203	172,340	82,440	89,900	2,437	4.9
〃 20 年 (終戦の年)	31,270	141,518	66,469	75,049	2,131	4.5
〃 22 年 (第 6 回国調)	37,356	166,995	81,375	85,620	2,513	4.5
〃 25 年 (第 7 回国調)	45,687	211,845	102,946	108,899	1,669	4.6
〃 30 年 (第 8 回国調)	55,613	259,047	124,589	134,458	1,896	4.7
〃 35 年 (第 9 回国調)	71,066	304,492	147,142	157,350	1,871	4.3
〃 40 年 (第 10 回国調)	90,084	358,190	172,409	185,784	1,836	4.0
〃 45 年 (第 11 回国調)	103,658	385,727	185,467	200,260	1,966	3.7
〃 50 年 (第 12 回国調)	116,436	408,707	196,714	211,993	2,083	3.5
〃 55 年 (第 13 回国調)	124,407	410,357	197,307	213,050	2,092	3.3
〃 60 年 (第 14 回国調)	127,481	411,743	197,351	214,392	2,099	3.2
平成 2 年 (第 15 回国調)	133,726	410,324	196,096	214,228	2,091	3.1
〃 7 年 (第 16 回国調)	140,680	407,134	193,323	213,811	2,075	2.9
〃 12 年 (第 17 回国調)	146,350	402,751	191,164	211,587	2,064	2.8
〃 17 年 (第 18 回国調)	岐阜市	153,998	196,209	217,158	2,037	2.7
	旧岐阜市	149,098	189,633	210,298	2,050	2.7
	旧柳津町	4,900	6,576	6,860	1,729	2.7
〃 22 年 (第 19 回国調)		161,718	196,525	216,611	2,036	2.6
〃 27 年 (第 20 回国調)		165,443	193,760	212,975	1,998	2.5
令和 2 年 (第 21 回国調)		173,386	191,679	210,878	1,977	2.3

備考 市制施行当時の世帯人口は岐阜市史の資料による。

【人口集中地区 (DID) の拡大状況】 資料：国勢調査



【DID 面積と DID 人口密度の推移】 資料：国勢調査



※人口集中地区 (DID)・・・人口密度が 4,000 人/km² 以上で人口が 5,000 人以上となる地区